



皇帝ダリヤ

NAO Letter

NAO
税理士法人

編集発行人
代表社員
高井直樹

〒500-8335
岐阜市三歳町4-2-10
TEL 058(253)5411(代)
FAX 058(253)6957

◆ 11月の税務と労務

- 国 税 / 10月分源泉所得税の納付 11月11日
- 国 税 / 所得税予定納税額の減額承認申請 11月15日
- 国 税 / 所得税予定納税額第2期分の納付 12月2日
- 国 税 / 9月決算法人の確定申告(法人税・消費税等) 12月2日
- 国 税 / 12月、3月、6月決算法人の消費税等の
中間申告(年3回の場合) 12月2日
- 国 税 / 3月決算法人の中間申告 12月2日
- 国 税 / 個人事業者の消費税等の中間申告
(年3回の場合) 12月2日
- 地方税 / 個人事業税第2期分の納付
都道府県の条例で定める日

11月

(霜月) NOVEMBER

3日・文化の日 4日・振替休日 23日・勤労感謝の日

日	月	火	水	木	金	土
.	1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30

※税を考える週間 11月11日～11月17日

ワン
ポイント

業務センターによる集約処理 国税庁では、申告書の入力処理などを「業務センター」で集約処理する、税務署の内部事務のセンター化を順次進めており、令和8年には全ての税務署を対象にセンター化が実施される予定です。センター化の対象となる税務署に申告書や申請書を書面で提出する場合、業務センターに送付することとなります。

原価管理とスループット会計



利益を生み出すためには「原価管理」は欠かせません。原価管理とは、製品の製造やサービスの提供にかかる原価を管理することです。原価を正確に把握することでコストの見える化を実現します。コストマネジメントとも呼ばれ企業の利益確保やリスク管理を目的として用いられます。

原価管理の手法の一つに「スループット会計」があります。製造業向けの原価管理手法ですが、経営効率や利益を上げることに特化しているのが特徴です。詳しく見ていきましょう。

スループット会計とは

「スループット」とは、生産ではなく販売によって得られるお金のことです。

「スループット会計」はスループットの最大化、つまり利益の向上が目的です。

$$\begin{array}{c} \text{スループット} \\ \parallel \\ \text{実際の売上} \\ \text{---} \\ \text{直接材料費} \end{array}$$

直接材料費は、資材費・外注費などの製品を作るためにかった費用を意味します。

◎スループット会計と従来の原価計算の違い
(1) 計算の方法

スループット会計

利益＝スループット（売上－直接材料費）－業務費用

従来の原価計算

利益＝生産－原価

従来の原価計算では「生産すれば販売できる」という前提で、生産されたものは資産として計

上し、生産から原価を引くことで利益を算出していました。

一方で、スループット会計は「販売されていない在庫は利益とみなされない」ため、製品が売れてから利益に含めるという考え方です。スループット（売上－直接材料費）から業務費用を差し引いたものが利益となります。

(2) 在庫

スループット会計

- ・ 資材費（販売するつもりのものみ）
- ・ 資材の加工速度が進んでも価値は付加しない

従来の原価計算

- ・ 資産
- ・ 資材の加工速度が進むと付加価値も増加

従来の原価計算では「作ったものは売れる」ことを前提としており、在庫は「資産」として計上されます。売れ残った在庫を抱えて損失が出ても、計算上は資産に計上されているため、利益が過大に計上されることが

あります。そのため経営判断のミスリードとなりかねません。

スループット会計は「売れていない在庫は利益として扱わない」という考えのもと、在庫は利益ではなく「資材費」として売上から差し引く対象として扱います。

また、従来の方法では加工速度が向上するほど在庫あたりの人件費や労務費が安くなると考えられていましたが、スループット会計では考慮しません。

(3) 業務費用

スループット会計

在庫を除くすべての支出額をすべて業務費用に含める

従来の原価計算

直接労務費や製造間接費を区別して科目ごとの金額を算出する

スループット会計は利益の向上に特化していることから「在庫以外の支出額をすべて業務費用に含める」という考え方です。利益に関わらない「直接原価」

「間接原価」等の厳密な計算は行いません。

なぜスループット会計が重要視されるのか

◎売り手市場から買い手市場へモノを作れば売れた「売り手市場」から価値観が多様化した結果、消費者に選ばれなければモノが売れない「買い手市場」へと状況が大きく変わっています。

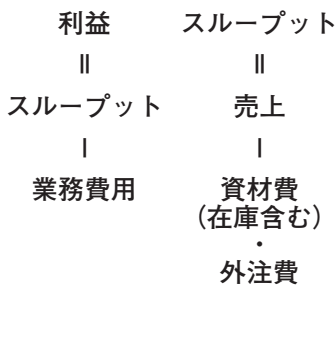
売り手側、製造業側は常に実需を正確に捉え、売れる予測の確実性が前提となります。商品サイクルは短期化し、売れるモノを作ることが求められます。

◎キャッシュフロー重視の傾向

スループット会計は「売上を上げていかにキャッシュを回収できるか」を重視する考えをもとに構成されています。いくら帳簿上で資産として利益が計上されていても、スループット会計では「多くの不良在庫を抱えている」ことになり、良くない状況という考え方になります。

キャッシュフローでは、「製造したモノをいかに効率よく売るのか」という点が重視されます。

利益を増やすための3つの方法



(1) スループットを増加させる

スループットを増加させる最も基本的な要素は売上の増大です。売上増大はコストカットと違い上限がなく、企業の活力が増し資金効率が向上します。

もう一つの要素は、資材費や外注費などのコスト削減です。外部の仕入れ値を抑えることや、外注費を減らし内製化を図りましょう。

(2) 在庫を減らす

スループット会計では在庫を利益とみなさないため、在庫を抱えすぎないことが利益を増加させる大きなポイントです。

スループット会計においては、製品の在庫だけでなく資材や加

工途中の製品も在庫として扱われます。製品の在庫を抱えすぎないことはもちろん、「余計な資材は買わない」「作った製品は余さず売る」ことも資材費の低減につながるため、利益の増加に好影響を及ぼします。

(3) 業務費用を減らす

業務費用の低減は利益増大に直結します。スループット会計では、製品を売るためにかかった費用は「業務費用」として計上されます。

業務費用は在庫をスループットに変換するために要する費用、つまり「在庫以外の支出額すべて」なので、現状の無駄なコストを見直すだけでなく社内の資産やリソースを有効活用して、新たな業務費用をかけない努力を続けることも大切です。

活用例① 設備投資可否の判断

事業を続ける中で設備投資の判断を求められることがあります。その際もスループット会計の考え方が役立ちます。判断基準のポイントは次の2つです。

・ その投資により全体的なスループットの上昇が見込

めるか

・ 上昇したスループットで投資分を回収できるか
大事なのは、工場全体・生産工程全体のスループットで考えることです。

活用例② 収益性に優れた製品の見極め

複数の製品が種類ごとにスループットが異なるため、各製品の収益性を判断することが大切です。

製造に共通設備やリソースを用いているが製造時間に差がある場合は、時間当たりのスループットで立場が逆転するケースもあります。製品ごとのスループットだけでなく、時間効率なども加味して製品の収益性を判断しましょう。

おわりに

スループット会計による原価管理で、売れるモノを作ること、適切な在庫水準と業務費用で制御し続けることで、キャッシュフローが潤沢な経営が可能となるでしょう。

アルムナイ採用

企業を退職した人を、英語で「同窓生」や「卒業生」を意味する「アルムナイ」と呼び、優秀な人材を採用するため退職者を再び自社に招き入れる「アルムナイ採用」を取り入れる企業が増えています。以前は海外を中心に活用されていましたが、近年日本でも人材獲得競争の激化を背景に多くの企業がアルムナイ採用に注目しています。

◆メリット

アルムナイ採用の企業側メリットとしては①人材の質の保証、②採用と教育コストの削減が挙げられます。

- ① アルムナイは以前にも自社で活躍していた人材だからこそ声をかけるケースが多いため、全く新しい人材を採用するよりも、自社にマッチする即戦力人材として採用後のミスマッチを軽減できます。
- ② 転職サイトなどの求人媒体を利用せずに採用できるため、採用前コストを大幅

におさえることができます。また、採用後も自社の業務や経営方針を理解しており、教育コストを圧縮できます。

◆デメリット

アルムナイ採用のデメリットとしては、既存社員の意欲低下の恐れがあります。一度退職したアルムナイが好条件で再雇用されると既存社員と溝ができたり、退職してもいつでも復帰できると感じかねません。せっかくの他社での経験や新しい知見が既存社員に受け入れられず、アルムナイの低評価が再離職に繋がる可能性があります。

アルムナイ採用を成功させるためには、採用するアルムナイの条件を明確に定め条件に則って選考し自社に迎えます。社内に制度の周知を図り、社員の理解を得ることが大切です。また、イグジットマネジメント（退職マネジメント）も欠かせません。自社にネガティブなイメージを持たず退職や転職ができるよう、円満退職を実現する人事管理の手法が企業価値を高め人的資本経営が実現できます。

新紙幣の「記番号」

2004年11月1日以来、20年振りの新紙幣、1万円にいたっては1984年11月1日に聖徳太子から福沢諭吉に変更されて以来、40年振りの新紙幣でした。現在、政府はキャッシュレス化を積極的に推進しているものの、依然として1万円札の流通枚数は増加の一端をたどり、不正防止対策の一環として新紙幣の発行は重要性が高かったといえます。新紙幣の改刷対応は費用が重く、企業の対策としては券売機等の改修はせずキャッシュレス決済のみに切り替える動きも出ているようです。

また、新紙幣を手に入れて注目したいのは「記番号」です。現在発行されている紙幣の記番号は、最初と最後がアルファベットでその間に6桁の数字が入っています。すべて同一数字や1～6が順に並んでいるものは人気が高く、プレミアム価格で取引されることもあります。運よく手にしたら話題となるでしょう。

殿様枕症候群

国立循環器病研究センターは、脳梗塞を起こす原因に高い枕の使用が関係していることを、患者らを対象とした研究で突き止めました。この関係性から「殿様枕症候群 (Shogun pillow syndrome)」を提唱しています。江戸時代に「殿様枕」と呼ばれる高くて硬い枕が庶民にも使用されてきました。また、19世紀の複数の随筆に「寿命三寸楽

四寸」という言葉もあります。枕の高さが4寸(12cm)だとマゲが乱れずなおす手間も省けるので楽だけでも、3寸(9cm)の方が長生きできると考えられていました。何気ない睡眠習慣が脳梗塞を起こす原因になりえることがわかり、枕を変えるだけでリスクを下げられます。高い枕に寝たまま長時間スマホを見続けるなんてことだけは避けましょう。